

## 生島樹林昆虫調査

大貝秀雄 相馬明直 広畑政己 相坂耕作(讀)

### はじめに

20周年を迎えた姫路昆虫同好会も、ながいあいだ合同調査を行なっていませんでした。このたび郷土の昆虫解明のため、避けて通れぬ「生島」の調査をすることとなりました。ご存じの通り生島は赤穂市坂越湾に浮かぶ小島で、大避神社の聖地で国の天然記念物として全域指定されており、島の中は原生樹林でおおわれています。そのため坂越祭りのお旅所として以外島内に入ることが禁じられているようで、従来から植物分布調査と昨年陸産貝類の分布調査以外されていないのが現状である。

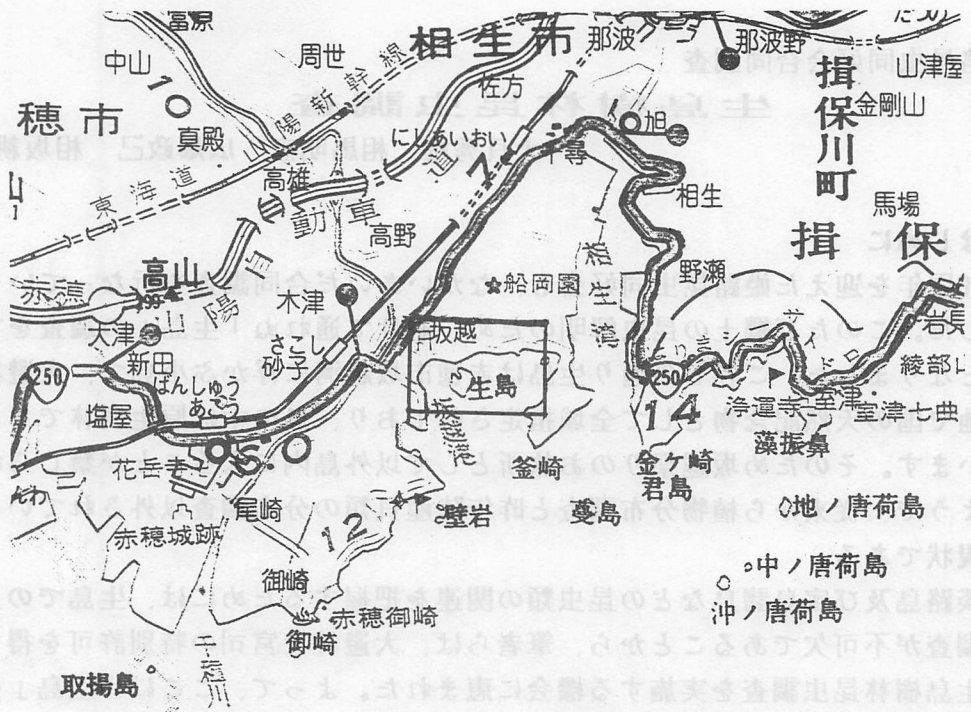
淡路島及び家島諸島などの昆虫類の関連を把握するためには、生島での昆虫分布調査が不可欠であることから、筆者らは、大避神社宮司の特別許可を得て、今回生島樹林昆虫調査を実施する機会に恵まれた。よって、ここに「生島」の概要と昆虫分布調査を報告する次第です。

本報告をまとめるにあたっては、特別の御理解と調査の機会を与えて下さり、そのうえ御案内いただいた大避神社宮司・生波島堯(いねはまが)氏及び調査に御協力下さった会員諸氏、並びに本調査中に虫の戯作を作成のうえ御協力を下さった井内利一氏に感謝申し上げます。

### 生島とは

生島は兵庫県赤穂市坂越湾に浮かぶ小島で、大避神社末社の聖地である。島の中には墓があり、これが時の朝廷に仕え、聖徳太子の寵臣で太子を守護してきた秦河勝の墓所である。この秦河勝公が大避神社の御祭神である。河勝公は皇極天皇3年(644年)に太子が没した後、蘇我入鹿の迫害をさげ難波の浦からうつば舟(丸木舟)に乗って、坂越の生島に渡り、千種川流域を開拓して、大化3年(647年)に80余才で坂越で他界した。このように秦河勝公が無事生きて着いた島であることから「生島(いきしま)」と名がついたという。生島は霊威のやどる島とされ、昔から付近の住民がこの島を神聖化し、一木一草にも手をつけず保護されてきました。ただ毎年10月に行なわれる「船祭」だけは立入り、例外となっています。

大避神社の御祭神秦河勝で忘れてはならないのは、太子が没した皇極天皇3年におきた常世の神事件である。この件は蝶の民俗学に造詣の深い権威者であられる今井彰氏により詳しく玉稿を載いているので軽く触れておく。



  
**坂越**  
 まちまみ  
 いらすまぶ



## 常世の神事件

赤穂市史第1巻によると、今回調査した生島の大避神社の御祭神、秦河勝公が東国で流行していた常世の神事件を抑えた話し（「日本書紀」皇極3年7月の条）が記されている。その内容は次である。

『秋7月、東国の富士川のほとりに住む大生部多(おほぶへのおほ)という者が、虫を祭ることを村人に勧めて「これは常世の神である。この神を祭れば、富と長寿を得るであろう」といった。そうして巫なぎ(みことなぎ)らも神のお告げだと偽って「常世の神を祭れば貧しい人は富を得、老いた人は若返る」といっては人々に勧めた。そのために家々の財産を捨てさせ、酒・野菜・家畜を路ばたならべさせて「新たに財産が入ってきた」と叫ばせた。このことを伝え聞いた町や村の人々は、競ってこの常世の虫を獲って屋敷に安置し、歌ったり踊ったりして福を願った。そのため財産も捨てた。ところがいつまで待っても報いられないまま、かえって困窮するものが続出する有様であった。

この時、山背(やまのせ)国の京都西郊に住む秦河勝が、人々が惑わされるのに怒って、大生部多を捕え打った。ために巫なぎも恐れをなし祭りを止めた。人々は歌を作って河勝をたたえ「太秦(河勝)は、神とも神と(神の中でも神だと)、聞え来る(評判の高い)、常世の神を、打ちきたますも(打ちこらした)と歌った。この虫は、常に橋の木やほそき(犬山榎)に集まる虫で、長さは四寸(約12cm)メートル太さは親指ほどもあり、緑色に黒いまだらのある蚕によく似た虫であった。」というのが常世の神事件の全容である。今でいうオウム真理教のような新興宗教の教祖を中央から派遣された秦河勝が解決したという事件である。日本書紀の記事によると秦河勝はその事件後、蘇我氏の専横などにより坂越清の生島へ渡ったとなるわけである。

## 生島の樹林と陸産貝

生島の樹林は、大正13年(1924年)国指定の天然記念物。更に国立公園特別保護区にも指定されている。島の周囲はわずが1.63km、陸上から330m。島は密林でおおわれている。高木層はスタジイ、ツブラジイ、アラカシがあり、モチノキ、ヒメユズリハ、ヤブツバキ、カクレミノ、カゴノキがそれに続く。林床にはセンリョウ、マンリョウ、イズセンリョウ、アリドウシ、ジュズネノキが見られる。陸産貝も生息しており、これに関しては山下幸一著、生島の非海産貝類調査(かいなかい・阪神貝類学会・1984)により詳しく記されている。それによるとヤマタニシ、クリイロカワザンショウガイ、クリイロコミミガイ、ハリマギセルガイ、チビギセルガイ、ナミギセルガイ、オカチョウジガイ、タワラガイ、ヤマナメクジ、シメクチマイマイ、アワジオトメマイマイ、セトウチマイマイが記録されている。

## 調査の概要と昆虫の観察

本調査は平成7年(1995)6月4日(日)で午前中くもりだったが、調査寸前となって日が差してきた。調度正午すぎからの観察となり、約2時間少々、4名の会員で行なった。1名は島に渡らず本土側で今回お世話になった料理屋“佐古志(さこし)”にて待つこととなった。その間、下記の遊蟲数えうたを戯作していただいた。



戯作

### 遊蟲数え詩

井内利一

1. 一番長いアリの列 働きものは一列に
2. 二つのつのをふりあげて そろりそろりとかたつむり
3. みんな出て摘むかいこどき 桑摘むことの忙しさ
4. 宵に出てきてとびかう螢 朝はかげさえもう見えぬ
5. いつも急ぎのてんとう虫 きれいな紋は七つ星
6. 村の子供と泳いでも 泳ぎ素早いげんごろう
7. 菜の花畠に紋白蝶 もつれもつれて日もすगर
8. 蜂の羽音の忙しさ 広いれんげの赤じゅうたん
9. 鎌形虫とはよく言うた 勝って兜の緒をしめよ
10. 十(と)でとんぼむれとぶ日暮どき あしたも天気になーれ

# 生島の昆虫リスト

## チョウ目

### アゲハチョウ科

ナミアゲハ(目撃) *Papilio xuthus*

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

### ジャノメチョウ科

ヒメジャノメ *Mycalesis gotama*

### セセリチョウ科

イチモンジセセリ *Parnara guttata*

## トンボ目

### トンボ科

シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum*

## コウチュウ目

### カミキリムシ科

ミドリカミキリ *Chloridolum viride*

ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta*

ヒシカミキリ *Microlera ptinoides*

アトモンサビカミキリ *Pterolophia granulata*

### カミキリモドキ科

フタイロカミキリモドキ *Oedemeronia sexualis*

### ゾウムシ科

ヒサゴクチカクシゾウムシ *Simulatacalles simulator*

ヒラセノミゾウムシ *Rhynchaenus dorsoplanatus*

ハマベキクイゾウムシ? *Dryotrbus mimeticus?*

### デオキノコムシ科

ヒメデオキノコムシ *Scaphidium femorale*

タマムシ科

ミツボシナガタマムシ *Agrilus trinotatus*

コメツキムシ科

ヒゲナガコメツキ *Neotrichophorus junior*

クシコメツキ *Melanotus legatus*

ジウカイボン科

クロスジツマキジウカイ *Malthus mucoreus*

ジウカイモドキ科

ホソヒメジウカイモドキ *Atalus elongatulus*

オオキノコムシ科

カクモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus*

アカハバヒロオオキノコ *Neotriplax Lewisii*

ミツボシチビオオキノコ *Tritoma maculifrons*

キノコムシダマシ科

アカバコキノコムシダマシ *Psenus insignis*

クチキムシ科

クチキムシ *Allecula melanaria*

クロツヤバネクチキムシ *Hymenalia unicolor*

ハムシ科

ナガハムシダマシ *Nemostira rufobrunnea*

ゴミムシダマシ科

マルツヤニジゴミムシダマシ

クビカクシゴミムシダマシ *Dicraeosis bacillus*

クワガタムシ科

コクワガタ *Macrodorcas rectus*

## ゴキブリ目

### ゴキブリ科

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica*

オオゴキブリ *Panesthia spadica*

## カメムシ目

### セミ科

アブラゼミ (羽化殻) *Graptopsaltria nigrofuscata*

クマゼミ (羽化殻) *Gryptotympana facialis facialis*

## アミメカゲロウ目

### クサカゲロウ科

カオマダラクサカゲロウ